

琉球大学学術リポジトリ

与那国方言のモダリティ体系の記述

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学 公開日: 2020-05-11 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 目差, 尚太 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/45825

琉球大学大学院
人文社会科学研究所委員会 殿

博士論文審査委員会

主査	狩俣 繁久	狩俣 石原 宮平
副査	石原 昌英	
副査	宮平 勝行	

学位（博士）論文審査の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、学位論文の審査を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	████████	学生氏名	目差 尚太
人文社会科学研究所 比較地域文化専攻		主指導教員	狩俣 繁久
		副指導教員	石原 昌英・宮平 勝行
成績評価	学位論文	合格 不合格	
論文題目	与那国方言のモダリティ体系の記述		
審査要旨	<p>令和2年1月16日に学位論文審査を実施した。</p> <p>本博士論文は、琉球語の中の与那国方言の文法論に関する記述的研究、特に文法論の中の構文論のうち、文のモダリティに関する記述的研究である。本博士論文は、序論第1章、第2章1節～16節において日本語のモダリティに関する先行研究のなかで包括的体系的な研究を行ってきた奥田靖雄の諸研究に基づいてモダリティを定義し研究の立脚点を記述している。本論では、モダリティの定義に従って、文のモーダルな意味の観点から文を分類し、第1章第1節～5節においてものがたり文、第2章第1節～第2節においてたずねる文、第3章第1節～第3節においてはたらきかける文について自らの臨地調査で得られた資料を基に論述している。モダリティの記述で重要な役割を担う話し手と聞き手の関係性が理解できる文脈を明示した用例を使用し再検証の可能性を保証している点でも評価することができる。</p> <p>本博士論文がモダリティに関する日本語文法の先行研究を丹念に渉猟したうえで論を進めていること、与那国方言を独立の言語と認め固有の言語体系の記述に成功していることも評価できるものである。あわせて、本博士論文が与那国方言のモダリティに関する最初の本格的な研究であるだけでなく、詳細で網羅的な研究であり琉球語のモダリティ研究への貢献、日本語諸方言のモダリティ研究への一定の貢献もなすものであることも認められる。学位論文審査会は、本博士論文が博士の学位論文に値すると判断する。</p>		

琉球大学大学院
人文社会科学研究科委員会 殿

博士論文審査委員会

主査	狩俣 繁久	狩俣 印 石原 印 宮平 印
副査	石原 昌英	
副査	宮平 勝行	

最終試験の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、最終試験を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	■■■■■	学生氏名	目差 尚太
人文社会科学研究科 比較地域文化専攻		主指導教員	狩俣 繁久
		副指導教員	石原 昌英・宮平 勝行
成績評価	最終試験	合格 不合格	
結果 要 旨	<p>副査宮平勝行の統括のもと令和2年2月1日に最終試験を実施した。提出された学位論文の題目は「与那国方言のモダリティ体系の記述」である。</p> <p>試験では論文に関することを中心に関連する分野、受講した科目等についても質問した。</p> <p>論文の中心課題であるモダリティに関する先行研究、および、関連する分野・事項の質問に対して十分かつ的確に回答していた。とくに審査対象者が大きく依拠したモダリティ理論を採用した根拠が明確に説明されていた。</p> <p>審査の結果、学位にふさわしい研究能力とその学識を有していることを確認した。以上の点から、本審査委員会は当該学生が学位の水準に達していると認め、最終試験に合格したと判断する。</p>		